

都市再生整備計画

やぶきえきしゅうへん
矢吹駅周辺地区

ふくしま やぶきまち
福島県 矢吹町

平成26年 月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福島県	市町村名	矢吹町	地区名	矢吹駅周辺地区	面積	41 ha
計画期間	平成	27年度～	平成	31年度	交付期間	平成	27年度～平成31年度

目標	大目標：魅力と賑わいのある中心市街地としての再生	
	目標1：利便性が高く魅力のある市街地の形成	
	目標2：多くの人々の活動・交流による賑わいと活力の創出	
目標設定の根拠	まちづくりの経緯及び現況	
	○福島県中通りの南部に位置する矢吹町は、県南地域の拠点的作用を担っている都市である。 ○矢吹町西部に位置するJR矢吹駅周辺部は、旧奥州街道の宿場町として矢吹宿が設けられ、明治時代に駅が開業したことにより、旧矢吹町の中心市街地としてより一層発展した。 ○地区内には、大正9年造の洋館「大正ロマンの館」(平成26年町が取得)や平成元年創業の造り酒屋など、歴史的建造物も残っている。 ○また、毎月1回のペースで開催されている「やぶき軽トラ市」では、数十台の車が並び、多くの来客がある。 ○しかし、人口減少と少子高齢化の進行、モータリゼーションの進展、近接する国道4号沿道や矢吹中央公園周辺などへの大型店舗の進出などにより、近年は賑わいや活力が低下していた。 ○旧中心市街地改正法に基づき、平成14年度に中心市街地活性化基本構想、同15年度に中心市街地活性化基本計画を策定し様々な施策に取り組んできたが、地元事業者等の協力を得ることができずまちづくりの主体となるべきTMOが設立できなかったなど、十分な成果が得られた状況ではなかった。 ○その上、平成23年の東日本大震災によって大きな被害を受け、現在は空地なども多くなっている。 ○しかし、JR矢吹駅を有する立地条件、歴史的経緯、都市基盤の整備状況等からみても、また県南地域など広域的にみても、本地区はこれからも本町の中心市街地としての役割を担っていくことが求められている。特に住民の高齢化などを踏まえると、コンパクトな歩いて暮らせるまちづくりが重要となっている。 ○震災後の平成24年、町は東京大学生産技術研究所と覚書を締結し、地域住民が主体となった活動を、行政や大学の研究機関が技術・学術・人材・資金など、さまざまな側面からサポートしていく「まちむすびプロジェクト」が開始されており、現在も大正ロマンの館の改修・利活用などの取り組みが進められている。	
課題	本地区では、東日本大震災からのスピード感のある復旧・復興が望まれるが、その過程においては中心市街地として、町全体のこれからのまちづくりにも考慮して、以下のような課題に取り組んでいく必要がある。	
	○利便性が高く、住みやすい市街地の形成 今後本町の中心市街地として、また本町が進めるコンパクトなまちづくりの拠点としても機能するよう、利便性が高く住みやすい市街地を形成していく必要がある。 ○地域の特徴を活かした魅力づくり 活力や賑わいを創出する多くの人々が集まるまちに再生するため、集積している各種施設、歴史・文化資源などを活用して、地区の魅力を高めていく必要がある。 ○住民や事業者のまちづくりへの参画 まちづくりの主体である住民や事業者が主体となって、商店街の活性化やまちの賑わい創出などに取り組む必要がある。	
将来ビジョン(中長期)		
目標を定量化する指標	○町の最上位計画である第5次矢吹町まちづくり総合計画では、本地区が含まれる中心市街地は、都市計画道路や都市公園、公共下水道の整備促進など土地利用機能の集積を図ることとされている。	
	○平成8年策定の矢吹町都市マスタープランにおいても本地区は中心市街地の一部に位置づけられており、県南地域の地域核にふさわしい都市機能の集積を図ることとされている。また、現在策定中の新しい都市計画マスタープランにおいても、コンパクトなまちづくりを進める中、本地区を含む矢吹駅周辺を商業・業務拠点に位置づけ、多様な都市機能の集積・充実、魅力的で快適に過ごすことができる都市空間の形成を目指すこととしている。	
	○平成26年策定の県南都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針「県南都市計画区域マスタープラン」において、矢吹駅周辺は県南地域生活圏の地域拠点にふさわしい商業地の形成を図ることとされている。	

指 標	単 位	定 義	目 標 と 指 標 及 び 目 標 値 の 関 連 性	従 前 値	基 準 年 度	目 標 年 度
大正ロマンの館でのイベント数	回/年	大正ロマンの館を活用したイベントの開催数	歴史資源である大正ロマンの館を活用したイベントを開催する事で、多くの人々が本地区を訪れ、活気と賑わいの創出が期待される。現在は改修途中のためイベントは開催していないが、改修後は「やぶき軽トラ市」などの連携などにより、1月から3月の寒冷期間を除き、月1回の開催を目指す。	0	H26	H31
平日歩行者通行量	人/日	計画エリア内の平日1日の歩行者通行量	歩行者通行量の増加は、より多くの人々が本地区を訪れたことを表すものである。各種施設整備などにより30%の増加を目指す。	216	H26	H31
空き店舗等の数	件・箇所数	計画エリア内の空き店舗、空き地、空き施設（住宅以外）の数	空き店舗や空き地などの減は、本地区の機能充実を表し、にぎわい創出などが期待できる。各種施設の整備などを進め、空き店舗や空き地などの減少を目指す。	58	H26	H31

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
■多様な都市機能の充実 ・地域住民の願い・交流の場などとなる地域交流センター・子育て支援センターと防災機能を有する矢吹公園を整備する。 ・これらの整備と、地区内の多様な既存施設、他事業により整備される屋内外運動場などの施設、町道一本木29号線（石川道）の拡幅による町役場などが集積する地区などとの連携強化などをあわせて、多様な都市機能の充実を図る。		■矢吹公園整備事業（基幹事業/公園） ■耐震性防水機等整備事業（基幹事業/地域生活施設施設） ■地域交流センター整備事業（基幹事業/高次都市施設） ■子育て支援センター整備事業（基幹事業/高次都市施設） ○災害復興公営住宅整備事業（関連事業） ○町道一本木29号線（石川道）拡幅事業（関連事業） ○一区自治会館整備事業（関連事業） ○屋内外運動場整備事業（関連事業）
	■地域資源を活用した地区の魅力の向上 ・貴重な歴史資源である矢吹神社境内と一体となった矢吹公園を整備し、同じく歴史資源である大正ロマンの館を改築し、交流の場などとして活用する。 ・近接して整備される屋台村とともに、地区の魅力向上につなげる。	■矢吹公園整備事業（基幹事業/公園） ■大正ロマンの館改修事業（基幹事業/既存建造物活用事業） ○屋台村整備事業（関連事業）
	■住民・事業者との協働によるまちづくりの推進 ・協働の取り組みの前提ともなる地区のまちづくりに関する基本的な考え方となる計画を策定する。 ・地区の住民や事業者のまちづくり活動を支援する。 ・活力ある商店街支援事業による商店主への支援などとともに、住民や事業者が主体となったまちづくりの推進を図る。	□矢吹駅周辺地区景観計画等策定事業（提案事業/事業活用調査） □事業効果分析（提案事業/事業活用調査） □まちづくり活動支援事業（提案事業/まちづくり活動推進事業） ○活力ある商店街支援事業（関連事業）
その他		
○まちづくり意識の高まり ・東日本大震災からの復旧・復興に際して、東京大学生産技術研究所と地区住民によるまちづくりに関する会議が持たれ、ワークショップなどにも取り組んでおり、住民たちのまちづくりに対する意識が高まってきている。		

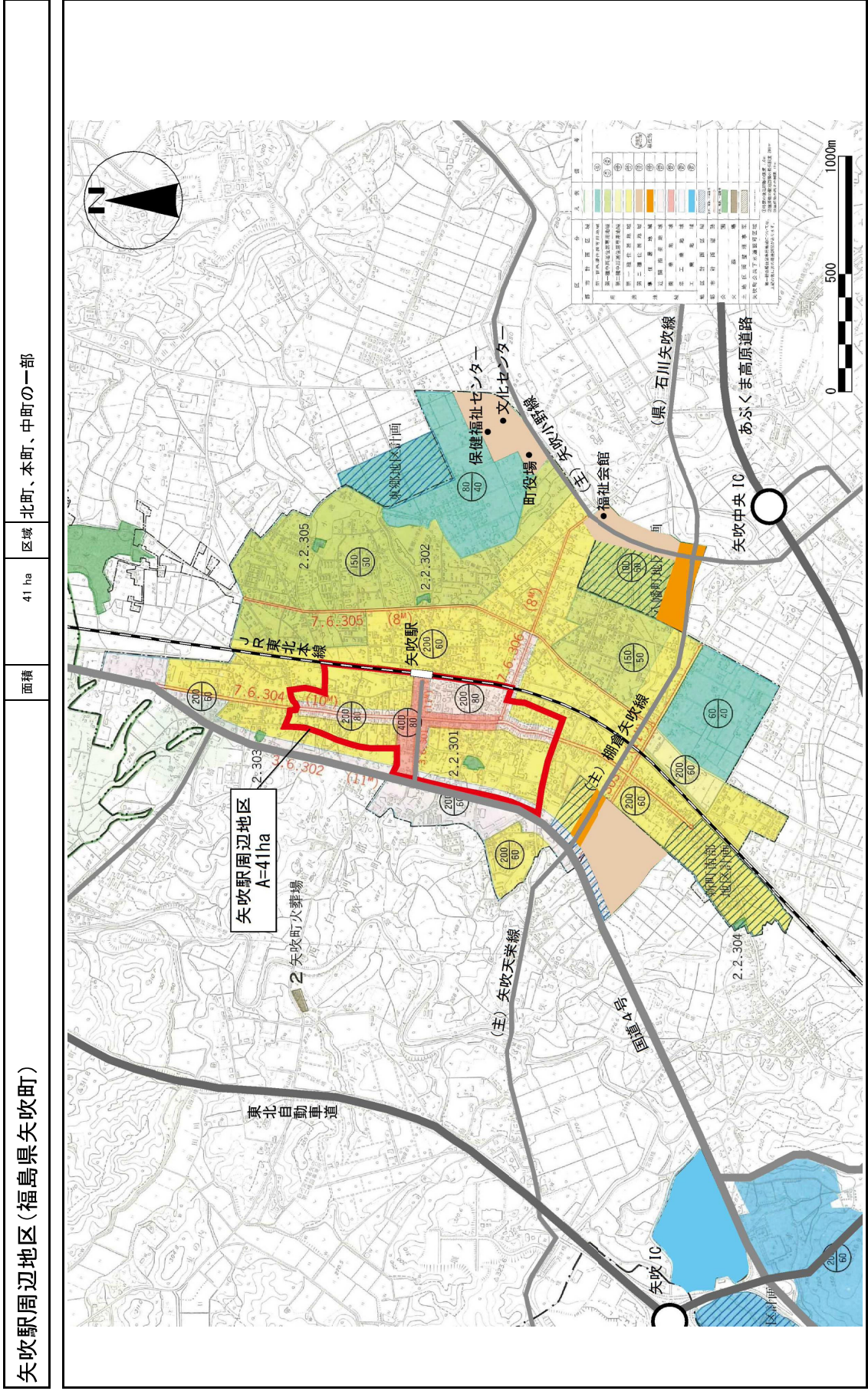
様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費		997	交付限度額		399	国費率		0.4	(金額の単位は百万円)				
基幹事業													
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間 開始年度 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度 終了年度	(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費	
道路													
道路													
道路													
道路(都市再構築戦略事業)		矢吹公園	町	直	4,100㎡	28 31	28 31	242	242	242		242	
公園													
公園(都市再構築戦略事業)													
古跡及び緑地保全事業													
河川													
下水道													
駐車場有効利用システム													
地域生活基盤施設		耐震性貯水槽・防災倉庫	町	直		29 29	29 29	13	13	13		13	
高質空間形成施設													
高次都市施設		地域交流センター 子育て支援センター	町	直	1,180㎡ 220㎡	27 31 27 31	27 31 27 31	596 114	596 114	596 114		596 114	
中心拠点誘導施設													
生活拠点誘導施設													
高齢者交流拠点誘導施設													
既存建造物活用事業(中心拠点誘導施設)													
土地区画整理事業													
市街地再開発事業													
住宅街区整備事業													
市街地再開発事業													
ハリアフリー環境整備事業													
優良建築物等整備事業													
住宅市街地 総合整備 事業													
沿道等整備型 密集住宅市街地整備型 附属改修促進型													
街なみ環境整備事業													
住宅地区改良事業等													
都心共同住宅供給事業													
公営住宅等整備 事業													
都市再生住宅等整備 事業													
防災街区整備事業													
合計								965	965	965	0	965	965
提案事業(継続地区の場合のみ記載)													
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間 開始年度 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度 終了年度	(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費	
地域創造 支援事業		大正ロマンの館	町	直		28 28	28 28	20	20	20		20	
事業活用													
事業効果分析		計画区域全域	町	直		27 31	27 31	8	8	8		8	
まちづくり活動 推進事業		計画区域全域	町	直		27 27	27 27	2	2	2		2	
合計								32	32	32	0	32	32
									合計(A+B)		965 997		
(参考)関連事業													
事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いづれかに○)			事業期間 開始年度 終了年度	全体事業費				
災害復興公営住宅整備事業	中町地区他	町		A=8,000㎡		○		H26 H27	1,500				
町道一本木29号線(石川道)拡幅事業	一本木29号線	町		L=1,000m		○		H26 H46	2,000				
一区自治会館整備事業	中町地区	町		A=700㎡		○		H26 H26	60				
屋内外通風環境整備事業	小松地区	町		A=6,000㎡		○		H26 H26	600				
地域商業自立促進事業(厩台村整備事業)	本町地区	町	中心市街地復興協議会	A=700㎡		○		H27 H27	30				
活力ある商店街支援事業	中町地区 他	町				○		H26 H26	16				
合計									4,206				

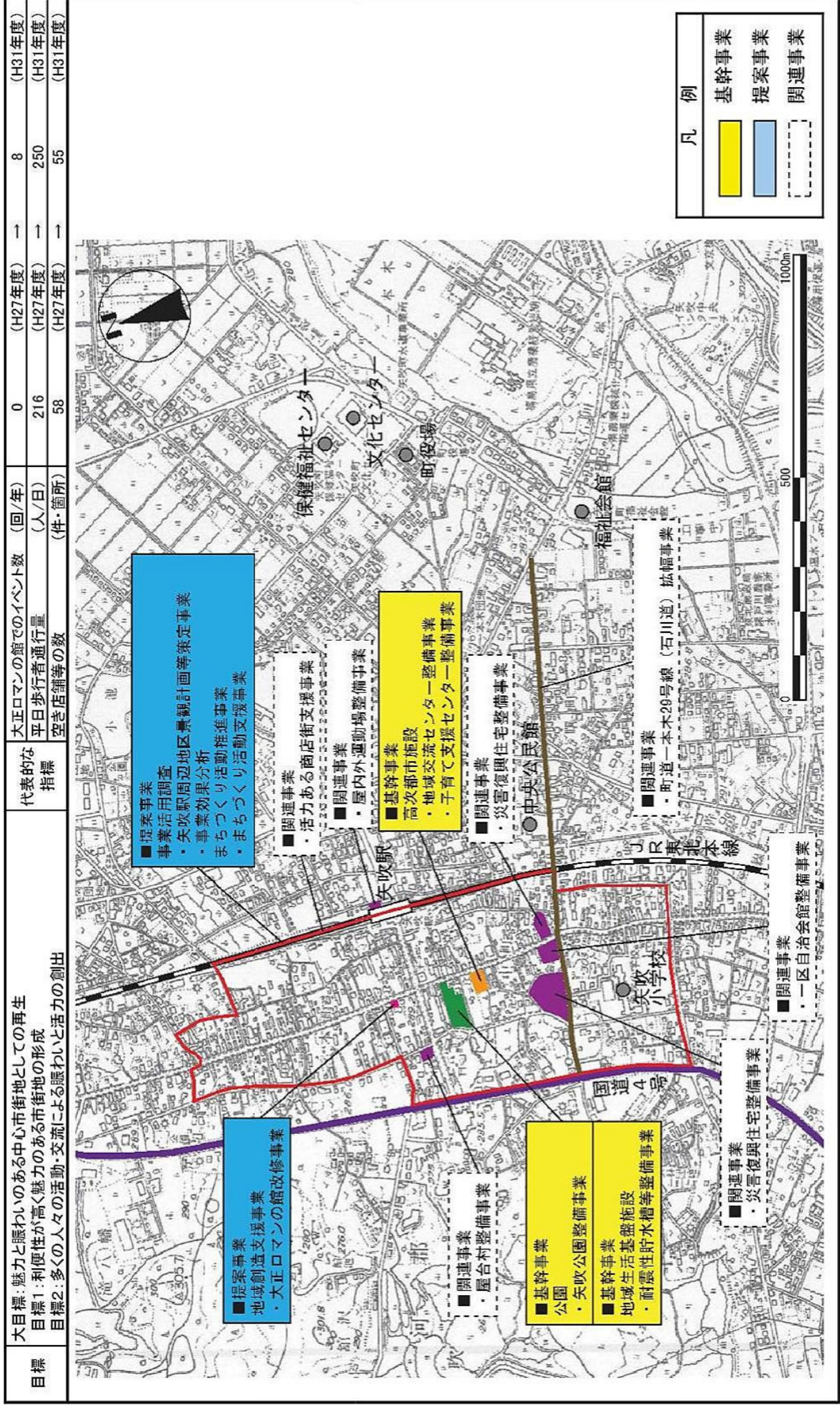
…A

…B

都市再生整備計画の区域



矢吹駅周辺地区(福島県矢吹町) 整備方針概要図



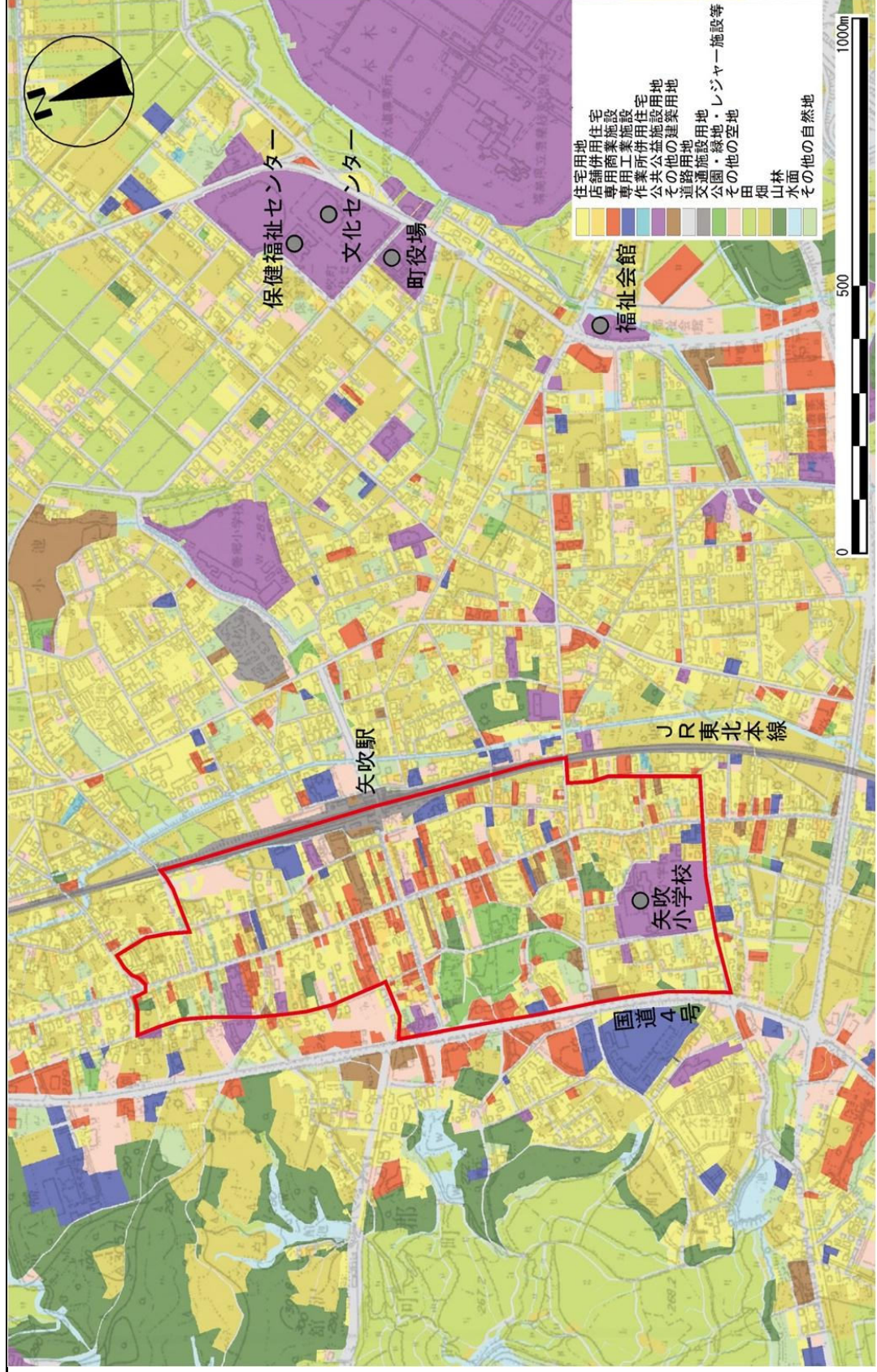
都市再生整備計画の添付書類等

交付対象事業別概要

やぶき えき しゅうへん
矢吹駅周辺地区

ふくしまけん やぶきまち
(福島県矢吹町)

矢吹駅周辺地区(福島県矢吹町) 現況図



交付限度額算定表(その1)

矢吹駅周辺地区(福島県矢吹町)

要綱第5に掲げる式による交付限度額(X)	398.8	百万円	規則第16条第1項に基づく交付限度額(Y)	35,245.0	百万円	X≤Yゆえ、本計画における交付限度額	398.8	百万円
----------------------	-------	-----	-----------------------	----------	-----	--------------------	-------	-----

規則第16条第1項に基づく限度額算定

Au		164,000	㎡
公共施設の上限整備水準			
区域面積(㎡)		410,000	
当該区域の特性に 応じて国土交通大臣が定める割合	区域の面積が10ha未満の地区	0.50	
	最近の国勢調査の結果による人口集中地区	0.45	
	その他の地域	0.40	

Ci		554,324	円/㎡
単位面積あたりの標準的な用地費			
標準地点数		1	
公示価格の平均値(円/㎡)		28,900	
単位面積あたりの標準的な補償費			
当該区域内の戸数密度(戸/㎡)		0.003	
標準補償費(円/戸)		44,000,000	

Cf		23,000	円/㎡
----	--	--------	-----

控除額		0	百万円
まちづくり交付金とは別に国庫補助事業等により整備する施設			
施設名(事業名)	面積(㎡)	国庫補助事業費等(百万円)	
合計		0	0

要綱第5に掲げる式による限度額算定

＜社会資本整備総合交付金＞			
交付対象事業費	基幹事業(A)	965	百万円
	提案事業(B)	32	百万円
	合計	997	百万円

Ap		41900	㎡
公共施設の現況整備水準			
整備水準が明らかに becoming 類似市街地等からの推定 推定現況整備水準(小数第2位まで)	推定公共施設面積(㎡)		0
個別公共施設の積み上げ	道路	面積(㎡)	割合
	公園	39,600	
	広場	2,300	0.01
	緑地	-	-
	公共施設合計	41,900	0.1

Cnを考慮しない場合の交付限度額(Y1)		35245	百万円
----------------------	--	-------	-----

ΣCn		0	円
下水道			
区域面積(㎡)		410,000	
うち現況の供用済み区域面積(㎡)			
標準整備費(円/㎡)		3,600	

		0	円
地域交流センター等の公益施設(建築物)			
上限床面積(㎡)		9,400	
標準整備費(円/㎡)		408,900	

		0	円
調整池			
調整池の容積(㎡)			
標準整備費(円/㎡)		140,000	

河川		0	円
河川整備延長(m)			
標準整備費(円/m)		3,700,000	

住宅施設			0	円
建設予定戸数(戸)				
超高層				
一般				
合計				0
標準整備費(円/戸)				
超高層				一般
北海道特別地区				33,500,000
北海道一般地区				30,990,000
特別地区				49,120,000
大都市地区				35,690,000
多雪寒冷地				37,170,000
寒冷地				41,510,000
寒冷地				32,370,000
寒冷地				35,640,000
寒冷地				30,280,000
一般地区				33,700,000
				28,640,000

市街地再開発事業による施設建築物		0	円
施設建築物の延べ面積(㎡)			
標準共同施設整備費(円/㎡)			132,000

電線共同溝等		0	円
電線共同溝等延長(m)			
標準整備費(円/m)			680,000

人工地盤		0	円
人工地盤の延べ面積(㎡)			
標準整備費(円/㎡)			5,300,000

協議して額を定める大規模構造物等		0	円
大規模構造物等			
協議状況			
整備費(円)			

Cnを考慮した場合の交付限度額(Y2)		35245	百万円
---------------------	--	-------	-----

交付要綱第5 3)式の適用[提案事業2割拡充]	
平成20年度二次補正予算の執行	
交付要綱第5 4)式の適用[中活等の45%拡充]	
交付要綱第5 5)式・6)式の適用[リノベ事業の50%拡充]	

交付限度額算定表(その2)

矢吹駅周辺地区 (福島県矢吹町)

交付要綱第5に掲げる式による限度額算定(詳細)

※水色のセルに事業費等必要事項を入力して下さい。(百万円単位)

○交付対象事業費(必ず入力)

単位:百万円 (百万円)

交付対象事業費	基幹事業合計(A)	965.000
	提案事業合計(B)	32.000
	合計(A+B)	997.000
	提案事業割合(B/(A+B))	0.033

(事業費)
(事業費)
(事業費)

⇒

1) 式で求まる額 $(4/10 \times (A+B))$	398.800	① (国費)
2) 式で求まる額 $(5/9 \times A)$	536.111	② (国費)
上記①、②の小さい方	398.800	③ (国費)
国費率 $(③ \div (A+B))$	0.400	④ (国費率)

○拡充の有無

以下の3つの拡充のうち、いずれかの拡充がある場合は、該当する欄に○を記入し、事業費等を入力。

・3) 式の適用[提案事業2割拡充]	
・平成20年度二次補正予算の執行	
・4) 式の適用[中活等の45%拡充]	

⇒

3) 式で求まる額 $(5/8 \times A)$	0.000	⑤
3) 式の適用後(適用がある場合は3式反映)	398.800	⑥ (国費)
3) 式適用後の国費率 $(⑥ \div (A+B))$	0.400	⑦ (国費率)

○拡充がある場合の事業費等

平成20年度二次補正の執行がある場合及び4)式の適用がある場合は、以下に事業費等を入力。

平成20年度二次補正	防災対象事業(A')	
の執行がある場合	補正予算の執行額	

⇒

③をA'に置き換えた額 $(A \Rightarrow (A-A') + 9/8 \times A')$	398.800	⑧ (国費)
執行額を足した額	398.800	⑨ (国費)
補正適用後(上記⑧、⑨の小さい方)	398.800	⑩ (国費)
補正適用後の国費率 $(⑩ \div (A+B))$	0.400	⑪ (国費率)

4) 式の適用を受ける場合	計画の認定等の年度末までの執行事業費(F)	
	適用対象となる交付対象事業費(A'+B')	0.000
	適用対象となる基幹事業合計(A'')	
	適用対象となる提案事業合計(B'')	
	適用対象事業のうち翌年度以降の執行事業費(H)	

※4) 式の適用を受ける場合で、経過措置を適用しない場合(H21以降新規地区)は、Fの欄を記入せず、A'、B'を記入し、A''=A、B''=B、H=A''+B''=A+Bとなる。

F (事業費)
(事業費)
A'' (事業費)
B'' (事業費)
H (事業費)

⇒

適用前の国費率 $(⑩ \div (A+B))$	0.400	⑫ (国費率)
適用対象事業費から求まる限度額	0.000	⑬ (国費)
適用後の国費率 $(⑬ \div (A''+B''))$	#DIV/0!	⑭ (国費率)
4) 式適用後の限度額 $(⑫ \times F + ⑭ \times H)$	#DIV/0!	⑮ (国費)

↓

拡充も考慮した交付限度額	398.800	⑯ (国費)
--------------	---------	--------

○交付限度額、国費率の算出

交付対象事業費(A+B)	997.0
--------------	-------

(事業費)

交付要綱第5に基づく交付限度額 (⑯を1万円の位を切り捨て)	398.8	⑰ (国費)
国費率	0.400	⑱ (国費率)

様式8 年次計画

(事業費：白力円)

基幹事業		事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
事業	細項目								
道路									
公園		矢吹公園	町	242		110	87	45	
古都及び緑地保全事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設		耐震性貯水槽・防災倉庫	町	13			13		
高質空間形成施設									
高次都市施設		地域交流センター	町	596	34	420	142		
		子育て支援センター	町	114	6	80	28		
既存建造物活用事業									
中心拠点誘導施設									
生活拠点誘導施設									
高齢者交流拠点誘導施設									
土地区画整理事業									
市街地再開発事業									
住宅街区整備事業									
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備促進事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地 総合整備 事業	拠点開発型								
	沿道等整備型								
	密集住宅市街地整備型								
	耐震改修促進型								
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									
計				965	40	610	270	45	0
提案事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
地域創造 支援事業	大正ロマンの館改修事業	大正ロマンの館	町	20		20			
事業活用 調査	矢吹駅周辺地区景観計画等策定事業	計画区域全域	町	8	8				
まちづくり活 動推進事業	事業効果分析	計画区域全域	町	2					2
	まちづくり活動支援事業	計画区域全域	町	2	2				
計				32	10	20	0	0	2
合計				997	50	630	270	45	2
累計進捗率（%）					5.0%	68.2%	95.3%	99.8%	100.0%

公園(都市公園補助事業採択要件外)

公園等名(*1)	種別等(*2)	事業主体(*3)	概要(面積(m²)等) (*4)	交付期間内 事業費(百万円)	交付期間内事業費内訳			備考(*5)
					設計費 (百万円)	用地費 (百万円)	施設整備費 (百万円)	
矢吹公園	近隣公園	町	4,100㎡	242	25	150	67	園路、植栽等
								買収4,100㎡*29千円 ＝119,000千円
								用地費＝買収費+補償 費
合計	－	－	－	242	25	150	67	－

*1 公園等名ごとに1行ずつ記入。足りない場合は、適宜行を追加すること。

*2 「種別等」欄には、都市公園の種別である「街区公園」、「近隣公園」、「地区公園」、「特定地区公園」、「総合公園」、「運動公園」、「動植物公園」、「歴史公園」、「広域公園」、「レクリエーション都市」、「風致公園」、「墓園」、「緩衝緑地」、「都市緑地」、「緑道」のいずれかを記入。

都市公園でない場合は「無」を記入し、「概要(面積等)」欄に制度上の位置付け(条例設置公園等)を簡潔に記載。

*3 「事業主体」欄には、事業の施行者を記入。(間接交付の場合は、交付金事業者ではなく、「第三セクター」等の施行者を記入。)

*4 「概要(面積(m²)等)」欄には、都市公園でない場合に公園としての制度上の位置づけを記入する他、計画面積(単位:m²)等を記入すること。

*5 「備考」欄には整備する主な施設(園路、植栽、あずまや、体験学習施設等)を簡潔に記載。

*6 青色で着色してあるセルは自動計算されるので入力しないこと。

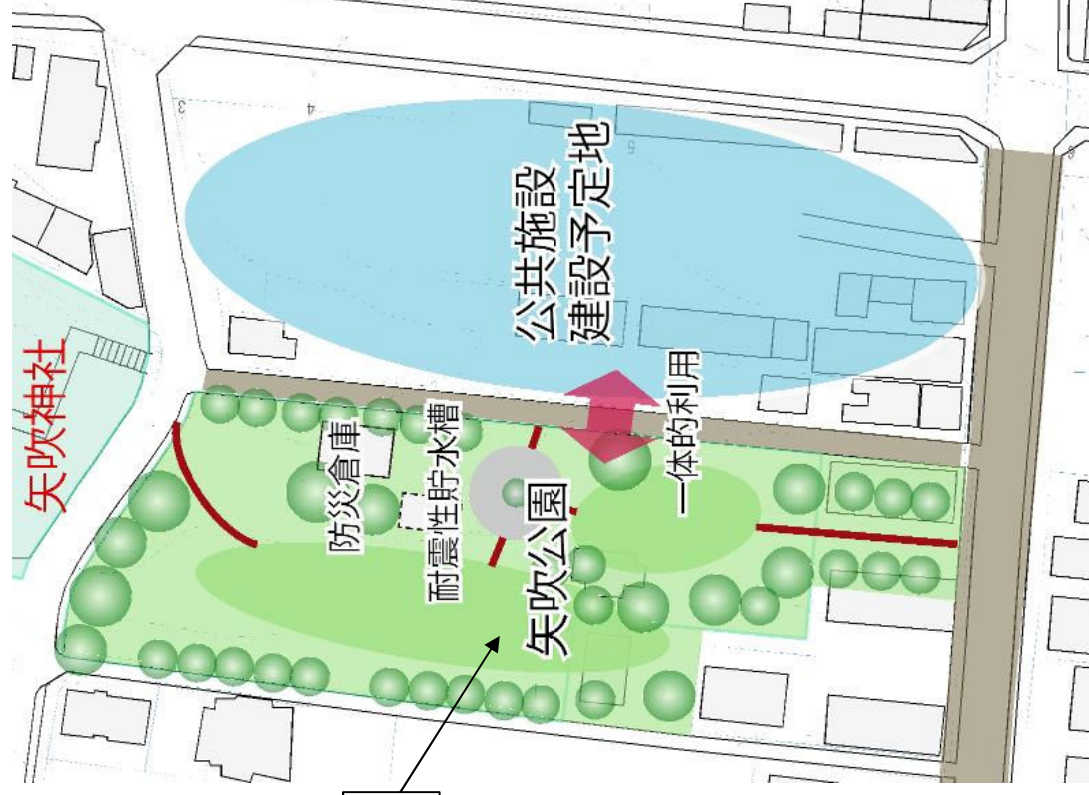
■公園

○矢吹公園整備事業

本地区のほぼ中央にある矢吹神社の参道部分を公園として整備する。

貴重な緑を保全するとともに、本地区の魅力となる矢吹神社をはじめとした歴史を感じることができ、災害時には町民の避難場所等としても機能するよう配慮して整備する。

整備イメージ



矢吹公園整備事業
(公園)

■地域生活基盤施設
○耐震性貯水槽等整備事業

東日本大震災で大きな被害を受けた本地区の防災性を向上するため、本地区のほぼ中央に本計画に基づき整備する矢吹公園内に耐震性貯水槽と防災倉庫を整備する。
矢吹公園内に整備することで、避難場所等としての活用が想定される同公園及び隣接地に建設予定の公共施設との連携による被災者対応などにあたることが可能となる。

整備イメージ



■ 高次都市施設
○ 地域交流センター整備事業

概要
石川道沿いにある中央公民館(昭和47年建設)の老朽化が激しく、また、町役場からも奥州街道沿いの中心市街からも離れているため、他施設との連携にも難があります。この点を考慮して、地域交流センターと子育て支援センターを中心市街の「マグネット施設」として整備し、「歩いて楽しい矢吹のまち」を実現しつつ、中心市街における「まちなか居住」の促進を図ります。また、施設整備にあたってはバリアフリー化に最大限の配慮を行い、今後の高齢化社会への対応を行います。

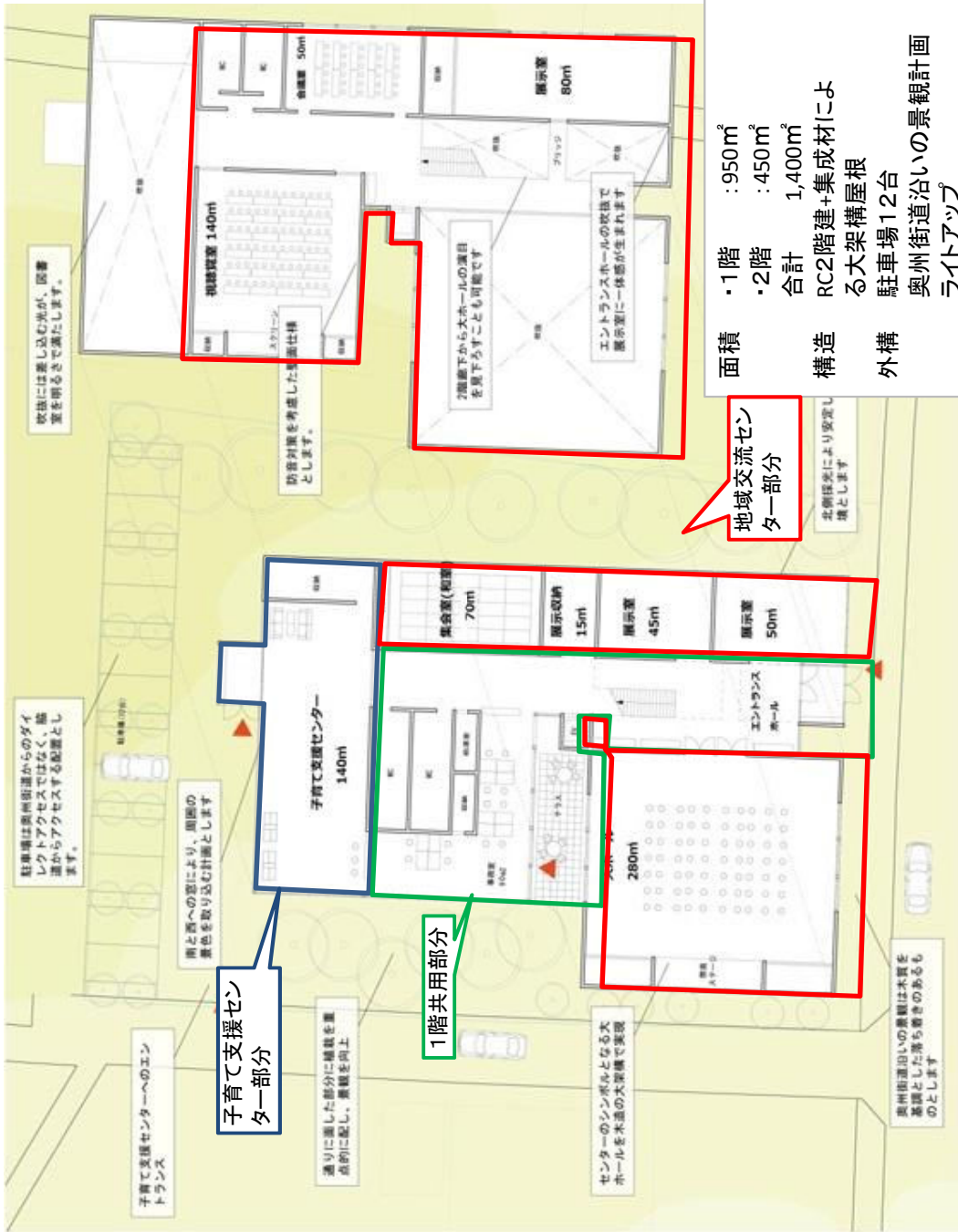
平面計画
交流センターのシンボルとなる大ホールを木造大架構にて実現し、奥州街道からダイレクトに入ることのできるエントランスを設けます。大ホールと事務室の間にはテラスを設け、演者の待機場所、ちよとしたレセプションパーテイなどがおこなえるようにします。ギャラリ及び展示室エントランスは周囲の伝統的な町割りを考慮し、敷地の奥深くまで分け入っていくような印象的なエントランスホールとします。エントランスホールはガラス屋根を持つ吹抜けとして、2階の展示室との一体感が得られるよう計画します。展示室は安定した光がえられる「北側採光」を行うため、建物の北側に配置します。子育て支援センターは建物の最奥部に配置して、展示室群・大ホールの動線と分けたエントランスを設けます。これにより、2つの機能を持つ建物の運用の便宜を図ります。事務室は交流センター機能と子育て支援センターの中間に配置し、それぞれの運営に機能に対応できるようにします。勝手口をテラスに設け、機能性の向上を図ります。

延床面積

	面積		按分後
	1階部分	2階部分	
地域交流センター部分	464.0㎡	450.0㎡	1179.8㎡
子育て支援センター部分	140.0㎡	220.2㎡	220.2㎡
1階共用部分(事務室・ホール・トイレ)	346.0㎡		
合計	1400.0㎡	1400.0㎡	1400.0㎡

事業費	全体		地域交流センター	子育て支援センター
	調査・設計費	1,400㎡	1,180㎡	220㎡
用地・補償費	34.0百万円	28.6百万円	5.4百万円	5.4百万円
施設整備費	40.0百万円	33.6百万円	6.4百万円	6.4百万円
合計	636.0百万円	534.2百万円	101.8百万円	113.6百万円

整備イメージ



面積
・1階 : 950㎡
・2階 : 450㎡
合計 1,400㎡
構造 RC2階建・集成材による大架構屋根
外構 駐車場12台
奥州街道沿いの景観計画
ライトアップ

■ 高次都市施設
○ 子育て支援センター整備事業

本地区は、本町の中心市街地でありながら、東日本大震災で大きな被害を受け、その復旧・活性化が急務となっている。また、本町が目指すコンパクトなまちづくりにおいて、本地区は多様な都市機能の集約が求められている。

そのため、本地区の活性化、中心商店街等の良好な街並み形成などを目指し、本地区のほぼ中心であり、町の玄関であるJR矢吹駅前にあたる場所に、町のシンボルとなり、多くの人を呼ぶことができる地域の交流センターを整備する。

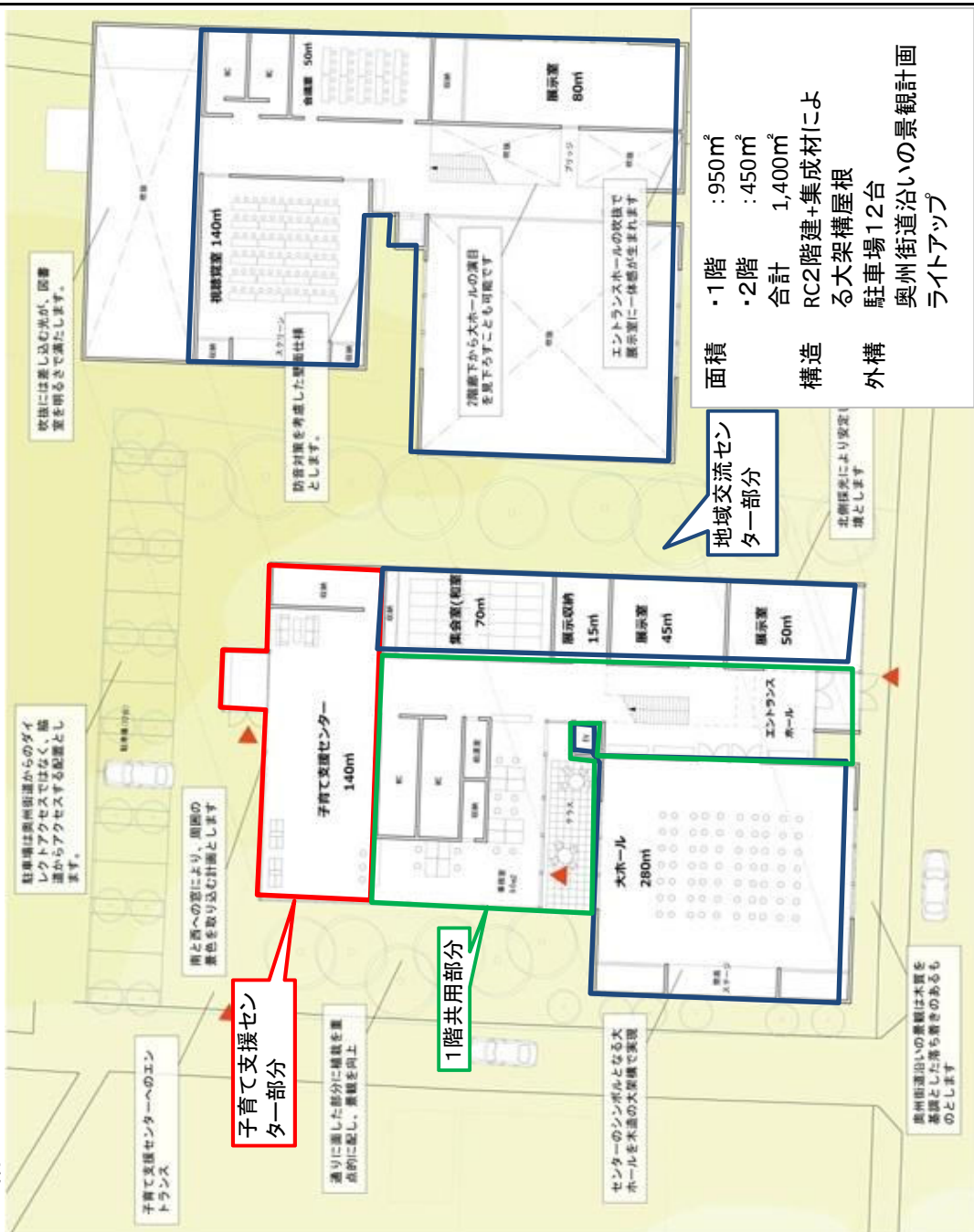
この地域交流センター内に、子育て支援センターを整備する。人口減少が続く少子化への対応が急務となっている本町において子育て支援センターの整備は重要である。また、上記のような役割が期待される地域交流センター内での整備は、利便性が高く、多くの利用も見込まれるため、より高い効果を得ることができるかと想定される。

延床面積

	面積		按分後
	1階部分	2階部分	
地域交流センター部分	464.0㎡	450.0㎡	1179.8㎡
子育て支援センター部分	140.0㎡		220.2㎡
1階共用部分(事務室・ホール・トイレ)	346.0㎡		
合計	1400.0㎡		1400.0㎡

	全体	
	地域交流センター	子育て支援センター
延床面積(按分後)	1,400㎡	220㎡
事業費		
調査・設計費	34.0百万円	28.6百万円
用地・補償費	40.0百万円	33.6百万円
施設整備費	636.0百万円	534.2百万円
合計	710.0百万円	596.4百万円

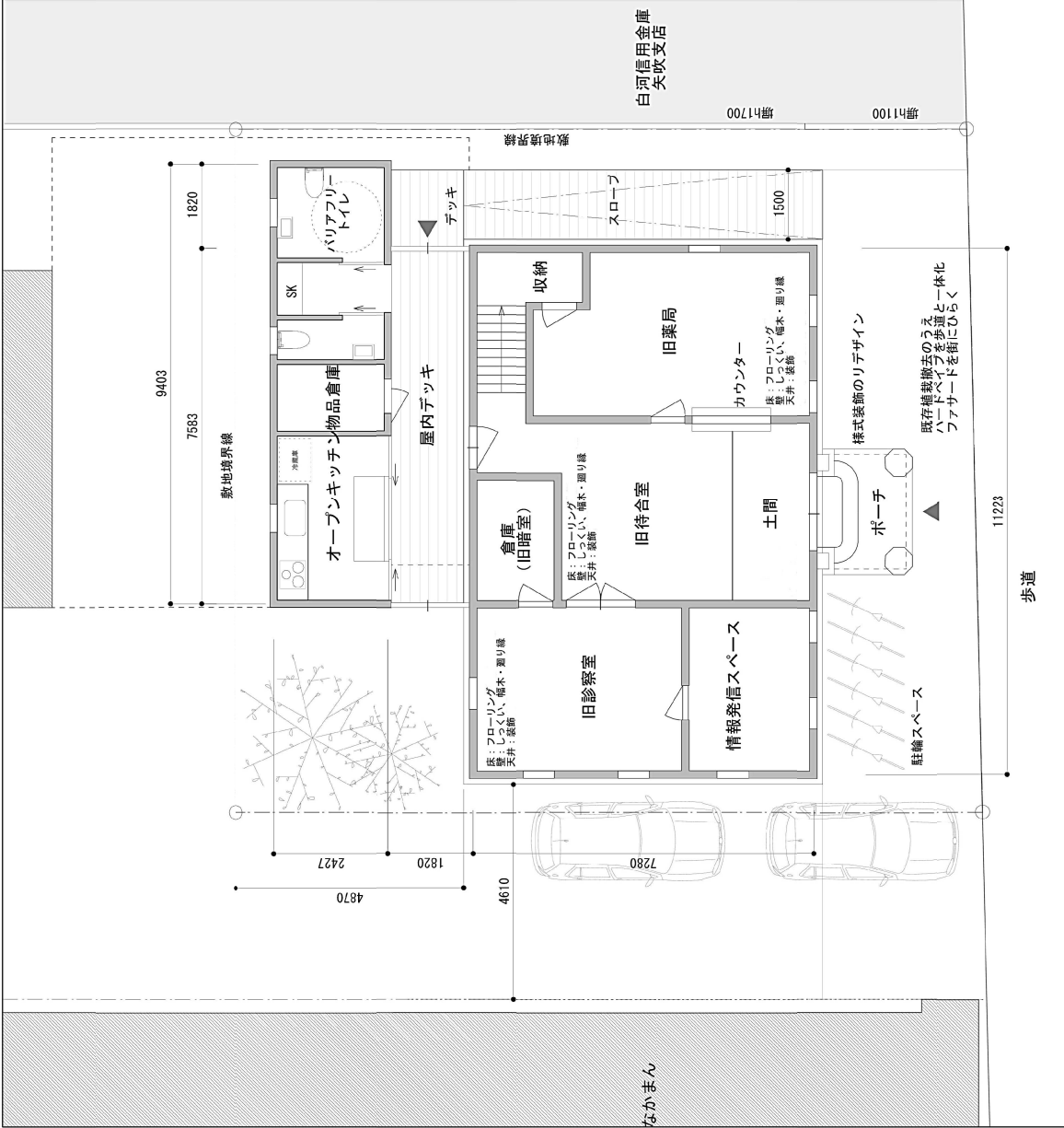
整備イメージ



面積
・1階 : 950㎡
・2階 : 450㎡
合計 1,400㎡

構造
RC2階建+集成材による大架構屋根

外構
駐車場12台
奥州街道沿いの景観計画
ライトアップ



■建物概要

＜既存部分＞

本築2階建て

1階床面積：81.68㎡+ポーチ

2階床面積：81.68㎡

合計床面積：163.36㎡

＜増築部分＞

本築2階建て

1階床面積：36.62㎡

延床面積：199.98㎡

■工事内容

＜既存部分＞

・耐震補強工事 基礎、耐力壁など

・改修工事 可能な限り旧来の工法および材料を採用する

外装：下見板 塗装

建具：上げ下げ窓 玄関建具

内装：フローリング 漆喰壁、木格子天井、左官細工

・復元工事 屋根装飾

・設備工事 照明、冷暖房、放送設備

＜増築部分＞

・既存部の補完機能 キッチン、トイレ

・バリアフリー対応

＜外構＞

歩道との境界の植え込みを撤去

ライトアップ

2階平面図



配置図／1階平面図

旧奥州街道

センター施設必要性(新規整備)

様式5

都道府県	福島県	市町村	矢吹町		
地区名	矢吹駅周辺地区				
センター施設の名称	地域交流センター				
事業費(百万円)	596.0	延べ床面積(㎡)	1,180		
事業期間	H28～H31				
年度計画(百万円)	H27:34(用地補償)、H28:420(設計、建設)、H29:142(建設)				
事業の熟度	概略設計済	建設	○	購入	
センター施設の概要	本町のシンボルとなり、地域住民と買い物客、災害復興公営住宅に居住する新住民などの交流の場としても機能する地域交流センター 構成要素:集会室等交流機能				
維持管理費(人件費含む)	25,200千円/年				
公共施設等総合管理計画の策定	H27.12予定				
支援対象	ホール、会議室、集会室、展示室、視聴覚教室など				
必要性等	本地区は、古くから中心市街地として、本町の顔となり、町の発展を牽引してきた地区である。しかし、近年は社会経済情勢の変化などから、まちの活気や賑わいが停滞していたところに、東日本大震災で大きな被害を受け、現在は中心商店街にも多くの空地が残っている状態である。 これに対して都市MPなどでは、本地区の多様な都市機能が集積する市街地としての再生を位置づけている。 このような本地区のほぼ中心であり、町の玄関であるJR矢吹駅前にあたる場所に、町のシンボルとなり、多くの人を呼ぶことができるような施設を整備することは、本地区の活性化、中心商店街等の良好な街並み形成、さらには本町のこれからのまちづくりにおいても重要な役割を果たす。 したがって、JR矢吹駅東側にあり老朽化対策が急務となっている中央公民館の代わりとなり、地域住民のほか、買い物客、さらには周辺に整備される災害復興公営住宅に居住する新住民の交流の場となる地域交流センターの整備が必要となっている。				
利用見込み	立地場所が良くなり、機能も充実することで少なくとも現在の中央公民館よりは多くの利用があるものと見込まれる。 その上で、子育て交流センター等を開放することで、多世代の地域住民や買い物客などの交流・休憩の場となるほか、現在は駅舎内で待っている多くの高校生などの利用も想定される。				
年間	18,000 人				

センター施設必要性(新規整備)

様式5

都道府県	福島県	市町村	矢吹町
地区名	矢吹駅周辺地区		
センター施設の名称	地域交流センター		
事業費(百万円)	114.0	延べ床面積(㎡)	220
事業期間	H28～H31		
年度計画(百万円)	H27:6(用地補償)、H28:80(設計、建設)、H29:28(建設)		
事業の熟度	概略設計済	建設	○ 購入
センター施設の概要	全町民を対象とした子育て支援センター 構成要素:子育て支援センター		
維持管理費(人件費含む)	4,200千円/年		
公共施設等総合管理計画の策定	H27.12予定		
支援対象	子育て支援センター、事務スペースなど		
必要性等	本地区は、古くから中心市街地として、本町の顔となり、町の発展を牽引してきた地区である。しかし、近年は社会経済情勢の変化などから、まちの活気や賑わいが停滞していたところに、東日本大震災で大きな被害を受け、現在は中心商店街にも多くの空地が残っている状態である。 これに対して都市MPなどでは、本地区の多様な都市機能が集積する市街地としての再生を位置づけている。 このような本地区のほぼ中心であり、町の玄関であるJR矢吹駅前にあたる場所に、本計画に基づき、町のシンボルとなり、地域住民と買い物客、災害復興公営住宅に居住する新住民などの交流の場としても機能する地域交流センターを整備する。本交流センターは、本地区の活性化、中心商店街等の良好な街並み形成、さらには本町のこれからのまちづくりにおいても重要な役割を果たす。 人口減少が続き少子化への対応が急務となっている本町において、上記のような役割が期待される地域交流センター内では、より多くの利用も見込まれるため子育て支援センターを同時に整備することが重要である。		
利用見込み	立地場所が良く、多くの利用が想定される地域交流センター内に整備することで、子育て支援センターの利用も多くあるものと見込まれる。 現在、保健センターには子育て支援センターがあるものの、高齢者施設(デイサービス)と併用しているため、手狭であり、利用希望に対して足りていない状況にある。地域交流センター内に整備されれば、子育て中の親と施設を利用する多世代の方々との交流機会も増え、互いに癒し、生きがいの場として利用される。		
年間	1,250 人		